

豊かな感性を製品づくりに生かす

NPO法人 La Mano

心身に障がいがあり、一般就労の困難な人たちの通所授産施設として1992年に開設したクラフト工房 La Mano(ラ・まの)。「草木染」や「藍染」などの染色と織物を中心に、自然の素材を使った製品を作っている。「商品としてのクオリティーを上げるためにそれぞれが得意な作業を担当し、豊かな感性をより良い作品作りに生かしています。」と話してくれたのは、施設長を務める高野賢二さん。

工房の設立は、もともと障がいをもった子どもたちに向けた造形教室を開いていた設立者が、養護学校の卒業後に通える、ものづくりを主体とした作業所を作りたいと考え

たことがきっかけだったという。現在では、地域の特別支援学校を卒業し、ものづくりの好きなメンバーが約20名と、スタッフ、ボランティアの人たちで協力し合って制作をしている。染色や織物のほかに、絵画や手描きのイラストのポストカードなどのアート部門にも力を入れている。

毎年7月と12月に行われるラ・まの染織展では工房で制作されたストールやTシャツなどを求めて多くの人が訪れる。展示会の時期でなくても作品は常時販売しているのでも、閑静な住宅地の中にたえず豊かな自然に恵まれた工房を見学に訪れる人も多い。



15台の機織機が並ぶ工房。それぞれのペースで作業を進めている。



人気商品のこいのぼり。



クラフト工房 ラ・まの施設長の高野賢二さん。

NPO法人 La Mano
〒195-0072 町田市金井5-14-18
連絡先: 042-736-1455
<http://www.la-mano.jp/>
※見学の際は事前にお問い合わせください

NPO 法人

まちだ × アクティブ!

思い出のおもちゃをいつまでも大切に

おもちゃ病院まちだ

大切な思い出の詰まったおもちゃを直してあげたい、直ったときに子どもたちと一緒に喜びたい。そんなおもちゃドクター達の集まりが「おもちゃ病院まちだ」だ。女性3名を含む総勢30名のおもちゃドクターは、すべてボランティアで参加し、得意分野を持つ「担当医」もいる。代表である院長の山崎幸雄さんにお話を伺った。

「設立10年になりますが、これまでトータルで6582件のおもちゃを修復しました。ほとんどが設立当初からのメンバーなので、年々腕前も上がり、修復率も近年は9割を超えました」。

「診療所」をのぞいてみると、20人

ほどのドクターと子どもたちでいっぱい。修理を待つおもちゃや工具、小さなネジや歯車などの部品も所狭しと並べられていた。一般的な工具から半田ごてなど専門的な工具も前で用意しているという。皆さんのご経歴は? と訪ねると、「過去のことは言わない・聞かないのが、このモットーです。子どもが好きで、修理することが好きな人が集まっているんですよ」と、事務長の菊地秀之さん。難しい修理があれば、皆が集まって議論百出、知恵を出し合う。解決した時には思わず歓声が上がります。元工作少年達が、子ども達以上に目を輝かせて修復に取り組んでいた姿が印象的だった。



修理の様子に目を輝かせる子どもたち。お母さんも説明を真剣に聞いている。



おもちゃ病院まちだのドクターのみなさん。



おもちゃ病院まちだ院長の山崎幸雄さん。

おもちゃ病院まちだ
連絡先: yyamazak@estate.ocn.ne.jp
開院場所: 町田ボランティアセンター活動室
(町田市民フォーラム4F)
診療日: 毎月第2・4土曜日 午前10時~午後4時
(受付は午後2時まで)
診療費用: 無料(但し、部品交換時は実費)

団体活動